NHO NEW WAVE

独立行政法人
国立病院機構
National Hospital Organization

初期研修医・専攻医のためのコミュニケーション情報誌
NHOニューウェーブ

発行：独立行政法人 国立病院機構 令和2年 秋号

vol.41 2020 Autumn

PROGRAM

#1 初期研修プログラムの紹介
北海道医療センター 臨床研究部長 新野 正明

#2 外科 専門研修プログラムの紹介
岡山医療センター 外科・副統括診療部長 太田 徹哉

HOSPITAL

静岡医療センター
「ハワイ医学教育プログラム（HMEP）」

Now On

NHOフェローシップ制度

RESEARCH

専攻医・初期研修医
アンケート 第一弾

北海道東北
グループ
20病院

“全国140の
NHO病院ネットワーク”

近畿
グループ
20病院

関東信越
グループ
32病院

東海北陸
グループ
18病院

中国四国
グループ
22病院

九州
グループ
28病院

SPECIAL

NHO専門研修プログラム紹介

初期臨床研修とともに専門医養成にも力を入れているNHO
全国NHO病院の専門研修プログラムを一覧で紹介

SPECIAL

NHO 専門研修プログラム紹介

国立病院機構本部
人材育成キャリア支援室長
鳥居　剛

“NHO × 専門研修プログラムの特徴”

NHOでは、初期臨床研修とともに専門医養成にも力を入れている。令和2年4月、基幹施設としての専門研修プログラム数は112、総募集数は390であった。一次登録者数は148名に対し最終登録数は157人で、前年と比較し24人増加した。登録者数の多い診療科は内科（88）、精神科（14）、総合診療科（10）、外科（7）の順で、増加が多かった診療科は内科（+14）、総合診療科（+7）、整形外科（+3）、麻酔科（+3）、精神科（+2）、リハビリテーション科（+2）であった。NHO病院の所在地域により各大学との連携が深い診療科も多くある中で独自のプログラムに応募する専攻医が少しずつ増えている。NHO病院のプログラムの特徴としては、連携施設にNHO病院が含まれるものが多いことがあげられる。これは連携施設での研修時に給与面や宿舎、異動の事務手続きなどが簡便で行えるという利点がある。処遇については各プログラムによりさまざまである。

本稿では、全国のNHO病院の専門研修プログラムを一覧できるようにした。また、プログラム紹介では、岡山医療センターの外科専門研修プログラムを掲載した。これから専門研修を志す方々への一助になれば幸いである。

“〈領域別〉NHO専門研修基幹施設”

領域	NHO専門研修基幹施設（令和２年度）
内科	北海道医療センター（3）旭川医療センター（3）仙台医療センター（12）水戸医療センター（4）栃木医療センター（5） 高崎総合医療センター（5）埼玉病院（7）千葉医療センター（3）東京医療センター（9）災害医療センター（1）東京病院（3） 横浜医療センター（5）相模原病院（4）まつもと医療センター（3）金沢医療センター（6）名古屋医療センター（11） 東近江総合医療センター（3）京都医療センター（6）宇多野病院（3）大阪医療センター（6）大阪南医療センター（8）神戸医療センター（6） 姫路医療センター（4）岡山医療センター（10）呉医療センター（3）福山医療センター（3）岩国医療センター（6）九州医療センター（4） 福岡東医療センター（8）長崎医療センター（6）熊本医療センター（6）鹿児島医療センター（3）
小児科	埼玉病院（3）下志津病院（3）東京医療センター（2）四国こどもとおとなの医療センター（7）長崎医療センター（3）
皮膚科	大阪医療センター（2）
精神科	仙台医療センター（4）下総精神医療センター（4）東京医療センター（2）久里浜医療センター（3）小諸高原病院（1） やまと精神医療センター（3）肥前精神医療センター（8）別府医療センター（1）琉球病院（3）
外科	水戸医療センター（8）千葉医療センター（1）東京医療センター（4）災害医療センター（1）東京病院（1）横浜医療センター（2） 名古屋医療センター（2）京都医療センター（5）大阪医療センター（6）岡山医療センター（2）九州医療センター（5）
産婦人科	仙台医療センター（5）高崎総合医療センター（3）埼玉病院（4）東京医療センター（3）京都医療センター（5）神戸医療センター（3） 四国がんセンター（1）長崎医療センター（5）
整形外科	東京医療センター（4）京都医療センター（3）呉医療・中国がんセンター（2）別府医療センター（2）
眼科	東京医療センター（1）名古屋医療センター（1）
泌尿器科	東京医療センター（2）
放射線科	東京医療センター（1）災害医療センター（1）
麻酔科	埼玉病院（2）東京医療センター（2）災害医療センター（1）静岡医療センター（3）京都医療センター（1）四国こどもとおとなの医療センター（1）
病理	東京医療センター（1）
救急科	北海道医療センター（2）仙台医療センター（3）東京医療センター（3）災害医療センター（1）横浜医療センター（2）京都医療センター（2） 長崎医療センター（3）熊本医療センター（5）
形成外科	長崎医療センター（1）別府医療センター（2）
リハビリテーション科	埼玉病院（4）
総合診療科	旭川医療センター（2）仙台医療センター（3）栃木医療センター（2）高崎総合医療センター（2）埼玉病院（2）東埼玉病院（6）東京医療センター（4） 横浜医療センター（1）新潟病院（2）まつもと医療センター（2）あわら病院（2）京都医療センター（3）大阪医療センター（2）岡山医療センター（2） 呉医療センター（2）福山医療センター（2）岩国医療センター（2）長崎医療センター（6）熊本医療センター（2）

※（　）内の数字は令和２年度募集定員数

“NHO専門研修基幹施設一覧”

グループ	施設	内科	小児科	皮膚科	精神科	外科	産婦人科	整形外科	眼科	耳鼻咽喉科	泌尿器科	脳神経外科	放射線科	麻酔科	病理	臨床検査	救急科	形成外科	リハビリテーション科	総合診療科
北海道東北	北海道医療センター	○															○			
	旭川医療センター	○																		○
	仙台医療センター	○			○		○										○			○
関東信越	水戸医療センター	○				○														
	栃木医療センター	○																		○
	高崎総合医療センター	○					○													○
	埼玉病院	○	○				○							○					○	○
	東埼玉病院																			○
	千葉医療センター	○				○														
	下総精神医療センター				○															
	下志津病院		○																	
	東京医療センター	○	○		○	○	○	○	○		○		○	○	○		○			○
	災害医療センター	○				○							○	○			○			
	東京病院	○				○														
	横浜医療センター	○				○											○			○
	久里浜医療センター				○															
	相模原病院	○																		
	新潟病院																			○
	まつもと医療センター	○																		○
	小諸高原病院				○															
東海北陸	金沢医療センター	○																		
	静岡医療センター													○						
	名古屋医療センター	○				○			○											
近畿	あわら病院																			○
	東近江総合医療センター	○																		
	京都医療センター	○				○	○	○						○			○			○
	宇多野病院	○																		
	大阪医療センター	○		○		○														○
	大阪南医療センター	○																		
	神戸医療センター	○					○													
	姫路医療センター	○																		
	やまと精神医療センター				○															
中国四国	岡山医療センター	○				○														○
	呉医療センター・中国がんセンター	○						○												○
	福山医療センター	○																		○
	岩国医療センター	○																		○
	四国こどもとおとなの医療センター		○											○						
	四国がんセンター						○													
九州	九州医療センター	○				○														
	福岡東医療センター	○																		
	肥前精神医療センター				○															
	長崎医療センター	○	○				○										○	○		○
	熊本医療センター	○															○			○
	別府医療センター				○			○										○		
	鹿児島医療センター	○																		
	琉球病院				○															

PROGRAM

#1 初期研修プログラムの紹介

国立病院機構 北海道医療センター

超急性期から慢性期まで幅広く経験、個々のニーズに応える自由の高い環境

北海道医療センター 臨床研究部長 **新野 正明**

北海道医療センターの初期臨床研修について――

当院は3次救命救急センターを併設し、さらに民間病院ではアプローチが困難な神経難病、小児慢性疾患、精神科身体合併症、結核も担うなど、超急性期から慢性期まで幅広い医療ニーズに対応している500床の病院です。

初期研修医が獲得するべき救急対応能力や幅広い診療能力の習得にふさわしい病院であることはもちろん、多彩な診療科を有しているため将来の志望科が決まっている方、決まっていない方、どちらにとっても最適な研修環境にあり、将来どのような専門分野に進むにしても大きな糧を得ることができる有意義な2年間を過ごすことができるでしょう。

プログラムの特徴について――

研修プログラムは、環境や仕事に慣れてもらう最初の2カ月間のみ固定で、研修医一人ひとりの希望に応じて選択肢の多い柔軟なプログラムを組むことができます。また、学会発表に向けてのトレーニングの場にもなっている院内の症例発表会や国立病院機構による「国立病院総合医学会」など、学会発表の機会も多く用意されており、さらに、全国の国立病院機構の研修医と共に勉強ができる「良質な医師を育てる研修」への参加など、国立病院機構のスケールメリットを活かしたモチベーションの高い研修ができることも特徴です。

読者へのメッセージ――

医師になって最初の2年間はさまざまなことを経験できる大切な期間です。当院の常勤医師は80名強で全員の顔が見える関係にあり、指導医との距離も近く、一人ひとりのニーズに応えることができる環境にあります。積極的に自己主張して、自分のやりたい医療をどんどん経験してください。

急性期から慢性期まで揃った幅広い診療環境、そして一人ひとりの希望に対応できる魅力ある研修プログラムと共に、病院から間近に見える三角山など美しい自然豊かな環境も魅力であり、快適で充実した研修生活を送っていただけることを約束します。

PROFILE

出身地 ： 山形県
出身大学 ： 北海道大学（1993年卒）
宝物 ： 家族
座右の銘 ： 為せば成る

国立病院機構
北海道医療センター

所在地 〒063-0005
北海道札幌市西区山の手5条7-1-1
WEB https://hokkaido-mc.hosp.go.jp

病床数 **500**床 診療科数 **29**科

北海道医療センターの特徴

北海道医療センターは、地域医療支援病院、在宅療養後方支援病院の指定を受け、地域の急性期医療のニーズに答える一方、札幌市全域・北海道をテリトリーとした政策医療（神経難病、精神科身体合併症、小児慢性疾患、結核）を担い、さらには災害医療の拠点（北海道災害医療拠点病院（DMAT配備）、札幌市災害時基幹病院）としての準備も怠ることのないよう日々努力を重ねております。

当院のモットーである「まいにちからまんいちまで」を、「ことわらない医療」を実践することで追求しています。

VOICE × 初期研修医

幅広い視点で多くのことに触れ、医師としての確かな礎を築く

初期研修医 2年目 **佐々木 耕**

目指す診療科が決まっていなかった私にとって、急性期から慢性期まで多くの診療科が揃っている環境や、希望によって自由にローテーションが組める研修プログラムは非常に魅力的であり、当院を研修先に選びました。

しっかり経験できる環境も魅力で、自分の希望で消化器内科を4カ月間ローテートした際は、上部・下部内視鏡を数多く経験できました。また、先生方から適切なアドバイスをいただき、検査時間を短縮するなど、着実な成長を実感しています。仕事は遅くまで残ることもなく、忙しすぎることもないので自分の時間をしっかり確保できますし、院内の雰囲気も抜群に良く働きやすい環境も魅力で、とても充実した毎日を過ごしています。

PROFILE

出身地 ： 北海道
出身大学 ： 久留米大学（2019年卒）
宝物 ： 日々得られる知識
座右の銘 ： 習慣は第二の知性なり

#2 外科 専門研修プログラムの紹介

国立病院機構 岡山医療センター

命を救うプロフェッショナルとして、いつの時代にも必要とされる外科医に

岡山医療センター 外科・副統括診療部長 **太田 徹哉**

岡山医療センターの外科専門研修プログラムについて――

当院には、外科（消化器外科・乳腺甲状腺外科を含む）・呼吸器外科・心臓血管外科・小児外科という、外科専門研修に必要な診療科が全て揃っているため、多彩で偏りのない研修により、基幹病院である当院での2年間で専門研修に必要な手術数を確保することができます。

その上で、サブスペシャルティ研修を念頭に置きながら、当院でのローテーション及び連携施設での研修を選択することができます。がん診療（腫瘍外科）志望であれば「四国がんセンター」、小児外科・心臓血管外科志望であれば「四国こどもとおとなの医療センター」と連携するなど、外科のどの分野に進むのかキャリアパスが見えやすいことも特徴です。

研修体制としては、待機症例では指導医とのチームで学び、救急症例では自ら判断して緊急手術を遂行する力を身につけてもらいます。教育体制は屋根瓦方式にて、後輩や初期研修医を指導する経験を通じて更なるスキルアップを図ることができます。各診療科スタッフは皆教育熱心で、院全体で医師を育てる環境も魅力です。

岡山医療センターだから経験できること、学べること――

外科医には、手術という患者さんにとっての一大イベントを、責任感を持って安全かつ成功裏に完遂する有形無形のスキルが求められます。手術を行うためのマネジメントやディシジョン・メーキングも不可欠であり、患者さんやスタッフからの信頼を得ることも重要です。そのためには、「自分の技術で患者さんを救うのだ」という強い信念と、常に患者さんへ寄り添う思いが必要となります。

また、現在では外科領域が細分化され、さらに内視鏡手術などの進歩、普及によって技術偏重の風潮もあり、外科治療の基盤である全人的医療が軽視されがちな傾向も出てきています。このような状況のなかで求められているのは、命に直結する手術を行うプロフェッショナルとして、内科の診断学や治療も踏まえた総合的な実力を兼ね備え、かつ努力を怠らず、技術的な向上を目指し続ける外科医です。当院での研修なら、こうした外科医として必要なスキルやマインドを着実に習得できると自信を持って言えます。

Q 先生にとって外科医の魅力・強みは？

A 外科医の醍醐味は、自らの技で命に関わる病気を治せたと実感できることであり、現代においては、そうした充実感は得難いものだと思います。さまざまなリスクを引き受けることにもなりますが、その対応能力を自然と身につけられることは医師として大きな強みにもなりますし、生涯を通じて大きなやりがいを得ることもできます。

Q 外科医を目指したい読者に伝えたいことは？

A 人の体にメスを入れることを自他ともに許される存在が真の外科医です。AIが取って代わることのできない技を受け継ぎ、患者さんやメディカルスタッフに必要とされ尊敬される外科医になってほしいと思います。

PROFILE

出身地 ： 岡山県岡山市
出身大学 ： 岡山大学（1988年卒）
宝物 ： 患者さんの笑顔
座右の銘 ： 鬼手仏心

国立病院機構
岡山医療センター

所在地 〒701-1192
岡山県岡山市北区田益1711-1
WEB https://okayama.hosp.go.jp

病床数 609床 診療科数 29科

岡山医療センターの特徴

全29診療科、609床の病床を有する高度急性期総合病院であり、地域がん診療連携拠点病院や地域災害拠点病院、地域医療支援病院に認定されています。

1. 高度に専門的な先進医療を総合的に提供している
2. 総合周産期母子医療センターに指定されており、成育医療における先導的役割を担っている
3. 卒後臨床研修病院として研修医教育を精力的に行っている
4. 地域医師会の生涯教育について積極的に協力している
5. DPC実施の急性期病院であり、脳・循環器系における先導的役割を担い、アクティブな診療を行っている。

外科専門研修プログラム × 年間計画

4月 外科専門研修開始
専攻医及び指導医に提出用資料の配布
日本外科学会参加（発表）
5月 研修修了者：専門医認定審査申請・提出
8月 研修修了者：専門医認定審査（筆記試験）
11月 臨床外科学会参加（発表）

2月 専攻医：研修目標達成評価報告用紙と、経験症例数報告用紙の作成（書類は翌月に提出）
専攻医：研修プログラム評価報告用紙の作成（書類は翌月に提出）
指導医／指導責任者:指導実績報告用紙の作成（書類は翌月に提出）
3月 その年度の研修終了
専攻医：その年度の研修目標達成度評価報告用紙と経験症例数報告用紙を提出
指導医／指導責任者：前年度の指導実績報告用紙の提出
研修プログラム管理委員会開催

国立病院機構 静岡医療センター

実践的な臨床と国際的医療が学べる 働きやすさと住環境の良さも魅力

静岡医療センター 院長 **中野 浩**

当院は、循環器、がん、救急、総合診療を4本柱とし、急性期から神経・筋疾患、重症心身障害を中心とした慢性期まで幅広い診療を提供しています。

多彩な症例を実践的に研修できることが特徴的であり、たとえば心臓血管外科では解離性大動脈手術の第一助手として入るなど、希望によって高度な手技も経験することができる環境にあります。さらにER（北米型）救急における「HMEP（ハワイ大学医学教育プログラム）」や、米国臨床研修をサポートする「JS プログラム」を導入するなど、国際的な臨床教育を学べることも大きな特徴です。

最先端で高度な医療現場には欠かせない優れた臨床工学技士や、ナース・プラクティショナー（診療看護師）が在籍するなど、コメディカルも非常に優秀で学ぶことも多く、さらに関係性が良いため働きやすいことも魅力です。官舎は新築で病院に近く、自然豊かな美しい景観や雪が降らない温暖な気候、新鮮な海産物など食にも恵まれ、住環境の良さも自慢です。

多彩な症例や手技を実践的に経験し、国際的な医療も学べ、働きやすく生活もしやすい。当院でなら、どこよりも充実した楽しい研修生活を送っていただけると確信しています。

われわれの多くは「無尽蔵な体力」や「オールマイティな知識」を持ち合わせていないと思います。そこで大切な「3つの能力」を磨くことをメッセージとさせていただきます。

1. Grit
——— やり遂げる力

2. Positive mindset
——— 前向きな考え方

3. Reflective practice
——— 省察的に実践できる力

皆さんもぜひ、今後、省察的実践力を磨いて医療人を目指していただきたいと思います。

PROFILE

出身地 ： 神奈川県伊勢原市
出身大学 ： 昭和大学（1986年卒）
宝物 ： 留学時代のフランスの絵葉書
座右の銘 ： 努力は人を裏切らない

国立病院機構
静岡医療センター

所在地 〒411-8611
静岡県駿東郡清水町長沢762-1
WEB https://shizuoka-mc.hosp.go.jp

病床数 **450**床　診療科数 **27**科

［ 診療科目 ］
内科、脳神経内科、精神科、呼吸器内科、消化器内科、循環器内科、リウマチ科、小児科、外科、整形外科、形成外科、脳神経外科、呼吸器外科、心臓血管外科、消化器外科、小児外科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻いんこう科、放射線科、歯科口腔外科、麻酔科、リハビリテーション科、病理診断科、救急科

外来患者数	456.8 名/日
救急外来患者数	10.8 名/日
入院患者数	336.0 名/日
救急車搬送患者数	7.0 名/日

HMEP × 指導医メッセージ

国際標準の医療を学ぶことができる ハワイ医学教育プログラム「HMEP」

静岡医療センター 救急科 医長 **大屋 聖郎**

当院では、軽症から重症まで疾患を問わず救急患者を受け入れるER（北米型）救急を実施し、さらにハワイ大学と提携した医学教育プログラム「HMEP」の導入により、救急医療を通して国際標準の臨床スキルを習得できることが特徴です。

当院の「HMEP」では、卒後教育だけではなく、2020年4月からポリクリを受け入れ、卒前教育にも展開するという全国にはない取り組みを行っています。また、USMLEの受験や米国臨床研修をサポートする「JSプログラム」を2019年から実施し、2019年度はアメリカレジデンシーに挑戦した全員が希望のポジションにマッチしました。

米国を目指す研修医でなくとも、米国医師から直接レクチャーを受けたり、ネット回線で米国のカンファレンスに参加したり、米国の医師にこちらの症例を診てもらいディスカッションを交わすなど国際的な医療を学ぶことで、医師としての視野を広げ、視座を高めることができるでしょう。将来、どの分野に進むにしても有意義な研修となるはずです。

PROFILE

出身地 ： 島根県浜田市
出身大学 ： 福岡大学（2004年卒）
宝物 ： 息子
座右の銘 ： Chance favors the prepared mind.

静岡医療センターのある街

静岡医療センターのある清水町は、静岡県東部地域の中心都市である沼津市と三島市の間に位置し、湧水量日本一の柿田川湧水群があり、富士山の雪解け水がわき出てくる「湧き間」を見ることができる。北に富士山、東に箱根連山を望み、素晴らしい景観と温暖な気候に恵まれた地域である。周辺には有名な温泉地やおいしい海産物が食べられる沼津港など、楽しめるスポットもたくさんある。

専門分野のスキルアップを応援。国内留学制度

NHOフェローシップ制度

国立病院機構では全国140病院のネットワークを活かし、初期研修医・専攻医の方々のスキルアップを応援する「NHOフェローシップ」を用意しています。短期間で専門ジャンルの知識がしっかり身につき、所属病院では経験できない症例などを幅広く経験できる点が魅力です。

国内留学を経験された先生の声をご紹介します。

現在、36病院93プログラム（血液内科、腫瘍内科、呼吸器科、アレルギー科、免疫・膠原病内科、神経内科、脳血管内科、消化器内科、循環器内科、腎臓内科、代謝・内分泌内科、総合内科、脳血管外科、外科、呼吸器外科、整形外科、泌尿器科、救急科、産科・婦人科、小児科、新生児科、小児外科、精神科、眼科、麻酔科、病理診断科）が留学施設として登録されています。制度利用ご希望の場合は、御所属病院の研修担当責任者へご相談ください。

※現在は、新型コロナウイルス感染拡大の影響により受入を中断しています。

NHOフェローシップ × 経験者の声

プログラム

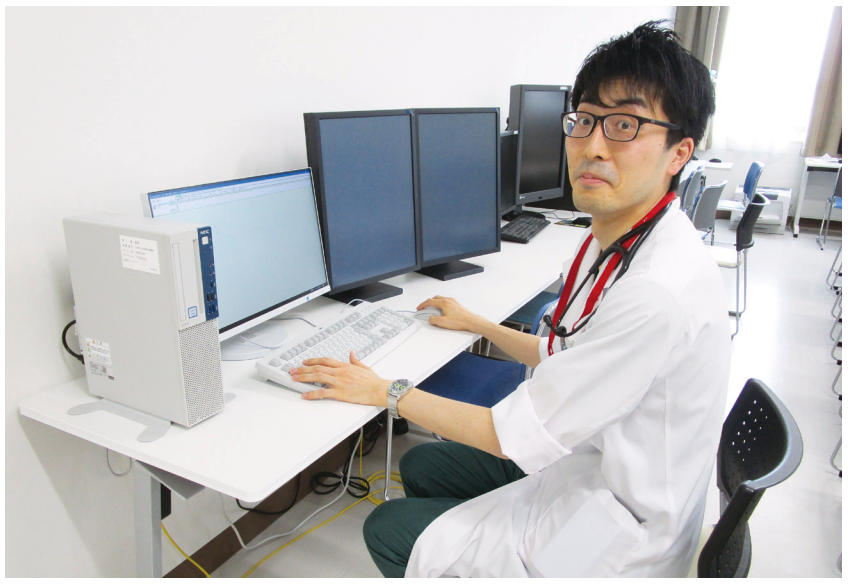
脳血管・神経内科基礎プログラム

旭川医療センター 脳神経内科 **大田 貴弘**

留学先病院
九州医療センター

留学日程
2019年12月1日～2020年2月29日

留学期間
3カ月間



2019年12月～2020年2月の3カ月間、国立病院機構のフェローシップを利用し、九州医療センター脳血管・神経内科に国内留学する機会を頂きました。私はレジデントとして、指導医および初期研修医とともに、救急対応・入院加療を担当させて頂きました。所属元では経験のできない超急性期を含めたあらゆる病型の脳梗塞、一過性脳虚血発作、こちらも経験数が少ない脳出血といった脳卒中の患者さんをはじめとし、てんかんや髄膜炎、フィッシャー症候群などの急性期神経疾患の患者さんも含めて担当させて頂きました（3カ月で計54症例）。所属元では脳神経外科がない関係上、rtPA静注療法や急性期血栓回収療法、内頚動脈狭窄に対する外科的血行再建術、脳出血への手術は行っておらず、これらに触れることができ大変勉強になりました。また、どのようなタイミングでコンサルテーションを行うべきかについて理解を深めることができました。手技については頚動脈超音波検査や経食道心臓超音波検査、経頭蓋超音波ドプラ検査などの検査を施行する機会を得ることで、診療の幅を広げることができました。また、九州医療センターは702床を有する総合病院で多くの診療科があり、適宜他科医師とも相談しつつ、所属元ではみることのできないような多疾患併存患者（例：大腿骨骨折に伴う脂肪塞栓症の患者、心臓外科術後の脳梗塞患者など）の診療についても学ぶことができました。多職種の方々から学ばせて頂くことも多く、特に嚥下リハビリについて、摂食・嚥下を先行期・準備期・口腔期・咽頭期にわけ、それぞれにおいて何が阻害因子となっているのかの統一したチェックリストが使用されていたのは非常にわかりやすいと感じました。

最後に、ご指導頂いたスタッフの先生方、レジデントの先生方、コメディカルの方々、宿舎の手配をはじめ、お世話になった事務職員の方々に感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

疾患名	経験症例数
アテローム血栓性脳梗塞	5
心原性脳塞栓症	6
ラクナ梗塞	5
脳梗塞（分類不能）	12
脳出血	7
てんかん	9
髄膜炎	3
パーキンソン病	1
フィッシャー症候群	1
その他	5

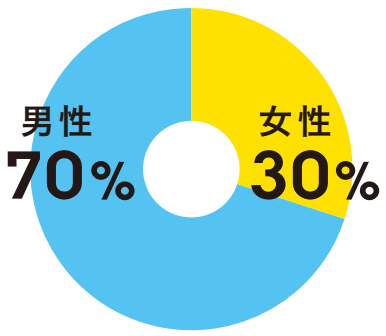
RESEARCH

NHO × 専攻医・初期研修医アンケート

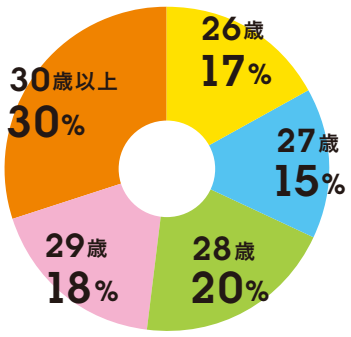
第一弾

国立病院機構の臨床研修病院で働く専攻医と専攻医志望の初期研修医に聞きました

Q あなたの性別は？

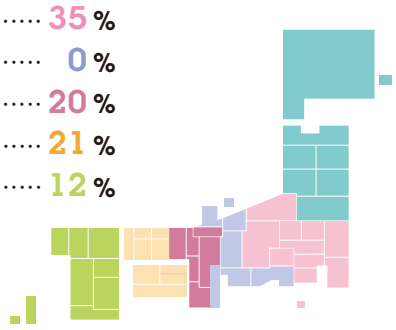


Q あなたの年齢は？



Q 勤務している病院のグループは？

- 北海道東北グループ …… 12%
- 関東信越グループ …… 35%
- 東海北陸グループ …… 0%
- 近畿グループ …… 20%
- 中国四国グループ …… 21%
- 九州グループ …… 12%



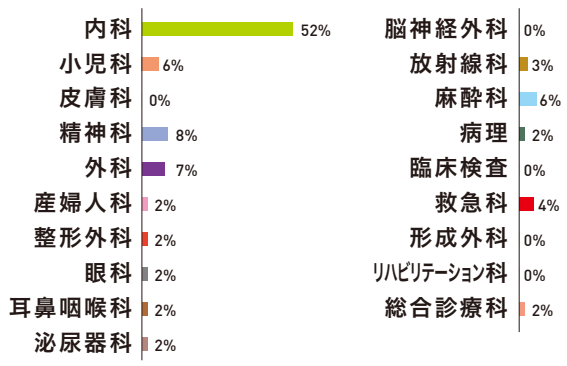
Q あなたの出身地は？

- 広島県 …… 12%
- 茨城県 …… 11%
- 北海道、東京都、大阪府 …… 8%
- 埼玉県、山口県 …… 6%
- 徳島県 …… 5%
- 京都府、兵庫県、島根県、岡山県、福岡県、佐賀県、長崎県 …… 3%
- 宮城県、福島県、千葉県、神奈川県、富山県、山梨県、愛知県、滋賀県、香川県、宮崎県、その他 …… 2%

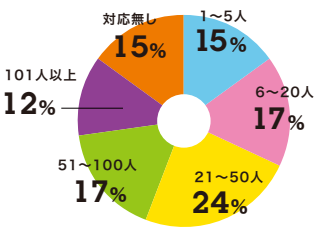
Q あなたの出身医学部の所在地は？

- 東京都 …… 14%
- 大阪府 …… 11%
- 北海道 …… 9%
- 茨城県、山口県 …… 6%
- 山形県、神奈川県、岡山県、佐賀県 … 5%
- 栃木県、埼玉県、京都府、広島県、愛媛県、福岡県 … 3%
- 群馬県、石川県、福井県、長野県、愛知県、滋賀県、兵庫県、鳥取県、徳島県、高知県、長崎県、鹿児島県 … 2%

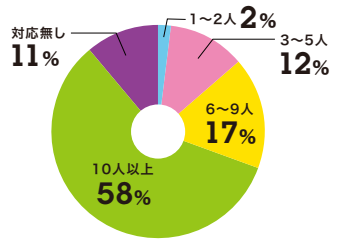
Q 専攻している専門領域は？



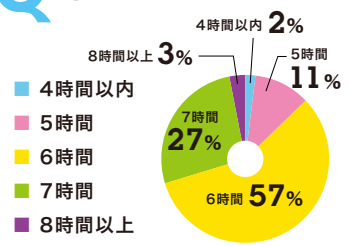
Q 月の外来診療人数は？



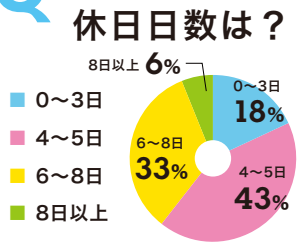
Q 月の受持ち入院患者数は？



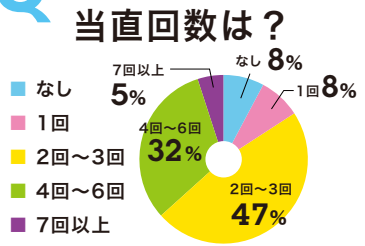
Q 平均睡眠時間は？



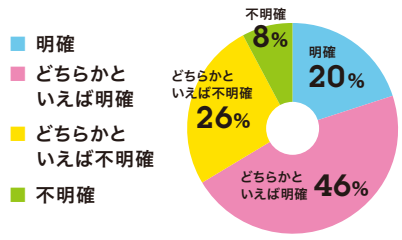
Q 月の休日日数は？



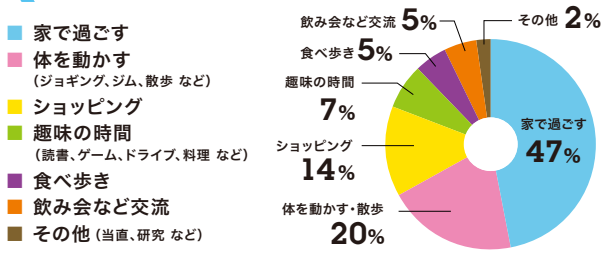
Q 月の当直回数は？



Q 仕事とプライベートは？

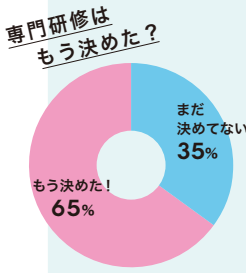


Q 休日の過ごし方は？ ※複数回答



専攻医志望の初期研修医に聞きました

Q 将来、めざす専門領域は？



- 内科 …… 24%
- 外科 …… 10%
- 小児科 …… 7%
- 泌尿器科 …… 7%
- 救急科 …… 7%
- 精神科 …… 6%
- 耳鼻咽喉科 … 6%
- 整形外科 …… 6%
- 産婦人科 …… 5%
- 放射線科 …… 4%
- 総合診療科 …… 4%
- 皮膚科 …… 3%
- 麻酔科 …… 3%
- 病理 …… 3%
- 形成外科 …… 3%
- 眼科 …… 1%
- リハビリテーション科 … 1%

BACK NUMBER × バックナンバー

過去の「NHO NEW WAVE」がWEBサイトから閲覧できます！

https://nho.hosp.go.jp/education/education_nho.html

NHO ニューウェーブ　検索

次号予告

NHO NEW WAVE vol.42 は2020年12月下旬発行予定です。

- SPECIAL.1 女性医師の活躍／女性医師サポート
- SPECIAL.2 第74回国立病院総合医学会 若手医師フォーラム受賞者紹介
- PROGRAM 初期・専門研修プログラム紹介